

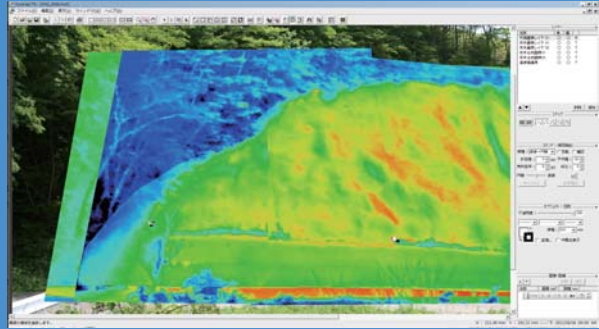
赤外線カメラによる構造物の劣化診断

建物外壁タイルやモルタル仕上げ面の浮き部と健全部では、熱伝導率の相違により外壁表面の温度に差が生じます。この温度差を赤外線カメラで測定し、その熱画像をコンピュータ解析することにより浮き部を特定する方法です。

●赤外線カメラ (NEC AVIO H2630)



●三次元赤外線構造物診断システム (Kuraves-Th)



■ 建物外壁の劣化診断

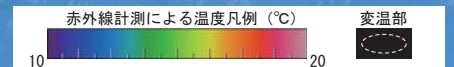
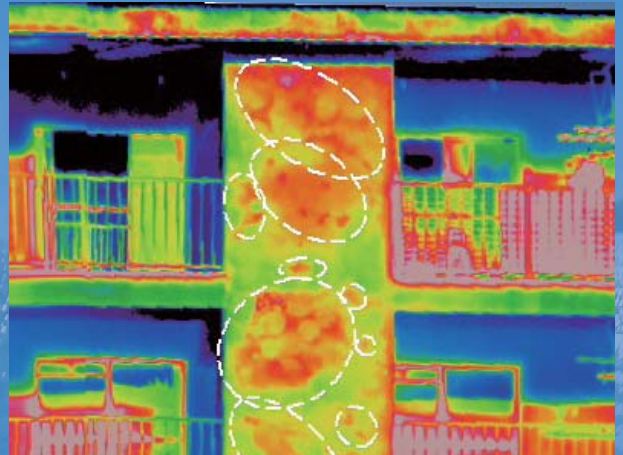
赤外線カメラを利用することにより、外壁の浮きや剥離等の劣化調査が離れたところからでも可能となります。また、足場等の大がかりな準備が不用で、工期の短縮やコストの削減を図ることができます。

●可視画像



写真提供：山北調査設計（株）

●赤外線画像（部分）



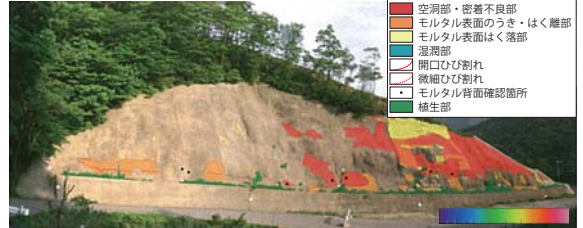
■ 吹付け法面の劣化診断

吹付け表面の温度分布状態を日中と夜間の2回撮影し、吹付け法面の不良部を抽出します。このため、これまでのように法面全体を調査する必要がなく、ポイントを絞った詳細調査や対施工の検討が可能になります。(旧建設省土木研究所制定の診断マニュアルを参考にしています。)

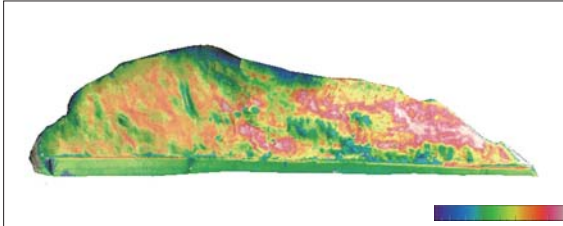
①可視画像



③劣化診断図



②赤外線画像



④変状箇所正面図 (CAD)

